

調査区域の西端では、直線状に南北に延びる石組み（1〜3段）を12mにわたって検出しました。

この石組みも、前記のものとは異なる建物に施された土壇の一部でしょう。

この他、建物の礎石と思われる小石の集積群や炉跡と考えられる焼けた土も確認されました。



③西端で出土した12mの石組み

これまで、文献や言い伝えでしか知られていなかったお城の様子が、少しずつ明らかになってきました。

お城での生活用品

この調査では土師器や陶磁器

などのかけらが多数出土しましたが、その中でも羽釜や土鍾など、お城での生活ぶりをうかがわせる興味深いものも出土しました。

羽釜は、底の部分に縁をつけた珍しい形で、湯を沸かす時や蒸す時に使われたと考えられます。

土鍾は、魚を捕るための網のオモリで、お城からも漁に出かけていたことが分かります。

この他、明かりをとすための灯明皿も、ほぼ完全な形で出土しました。



左上：土師器の皿（径14cm） 右上：灯明皿（径12cm）
下：魚網のオモリとしてつけられた土鍾（長さ5cm）



羽釜（径25cm 高さ16cm）

※県下でもこのような形のものは珍しい

城跡保存に向けて

今回の調査はまだ1回目とい

うこともあり、建物の規模や配置までは確認できませんでしたが、今後の調査で、それらも少しずつ明らかになっていくことでしょう。

発掘調査は、今後数年かけて行っていくますが、調査結果を踏まえ地元の人たちのご意見もお聞きしながら、どのような方法で保存・活用していくことが良いのかを検討していきたいと考えています。

博物館

☎68◆1881

